

■ 概況

4/21~4/27のNYMEX・WTI先物市場は、98.54~103.79ドルの範囲で推移した。

4月28日は、ドイツは、時間的余裕が与えられるならばEUのロシア産原油禁輸措置に反対しない方針であるとの報道で、先行き需給のひっ迫感が高まり、3日続伸した。6月限の終値は前日比3.34ドル高の105.36ドル。

週末29日は、米中の景気減速懸念がくすぶる中、米国の株式市場の暴落やドル高による割高感、利益確定売りで、反落した。6月限の終値は前日比0.67ドル安の104.69ドル。

週明け5月2日は、従来、ロシア産原油の禁輸に慎重だったドイツが容認に転じたとの報道で、需給ひっ迫が懸念され反発した。6月限終値は前週末比0.48ドル高の105.17ドル。

3日は、中国の感染再拡大による経済の停滞、翌日の米連邦準備制度理事会(FRB)を控え、利上げへの警戒感から反落した。6月限の終値は前日比2.76ドル安の102.41ドル。

4日は、欧州(EU)委員会が、ロシア産石油の禁輸で合意、原油は6か月以内、石油製品は年末までに実施すると発表、需給ひっ迫懸念から大幅反発した。米エネルギー情報局(EIA)発表の米国原油在庫は、予想外の積み増し(130万バレル増)だったが、製品在庫は取り崩しだった。パウエルFRB議長は、会議後0.75%の大幅利上げを否定、利上げは想定内として、大きな影響はなかった。6月限の終値は、前日比5.40ドル高の107.81ドル。

5日は、前日のOPECプラスの閣僚協議(WEB)で、5月の減産緩和を既定方針通り43.2万b/dと、小幅な増産に止めたことで、需給ひっ迫感が高まり続伸した。ただ、米株式市場の暴落の影響で上げ幅は限られた。6月限の終値は前日比0.45ドル高の108.26ドル。

週末6日は、今週のEUの年内ロシア産石油禁輸、OPECプラスの小幅増産の発表で、先行き需給ひっ迫懸念から続伸した。6月限の終値は前日比1.51ドル高の109.77ドル。

週明け9日は、先週高値の反動で、利益確定売りが多く、金利引き上げによる米国、都市封鎖が続く中国の景気減速懸念が高まり、4営業日ぶりに大幅反落した。サウジ販売価格の調整金の大幅引き下げも値下がりに要因。6月限終値は前週末比6.68ドル安の103.09ドル。

10日は、中国の感染再拡大による需要減速懸念に加え、EUはロシア産石油禁輸方針を打ち出したものの、ハンガリーが反対、一部が時間的猶予を求めると足並みがそろわないことで続落した。6月限の終値は前日比3.33ドル安の99.76ドルと100ドルを割った。

11日は、ウクライナが、ロシア産天然ガスの欧州向けパイプラインの主要中継点を封鎖、石油への波及懸念から、反発した。米国原油在庫は積み増しだったが、影響はなかった。6月限の終値は、前日比5.95ドル高の105.71ドル。

中東産バイ原油/東京市場(6月渡し)は、4月21日~27日の間、100.50~106.10ドルの範囲で推移した。4月28日102.20ドル、5月2日103.30ドル、6日107.10ドル、9日108.10ドル、10日101.10ドル、11日102.10ドルで推移した。

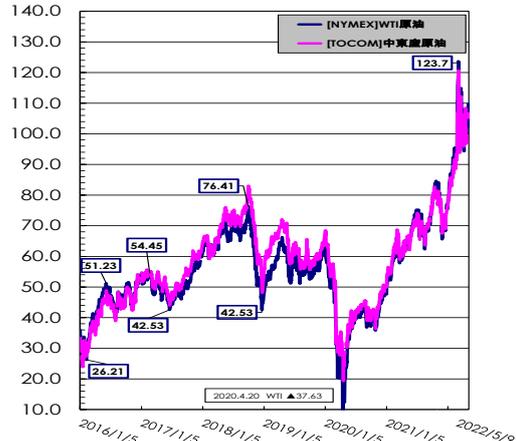
為替は、4月21日~27日の間、127.60~128.81円の範囲で推移した。4月28日128.86円、5月2日130.10円、6日130.52円、7日130.78円、10日130.03円、11日130.32円。

財務省が5月11日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、4月中旬の原油輸入平均CIF価格は、83.811円/kgで、前旬比5.037円高、ドル建て108.37ドルで前旬比4.59ドル高、為替レートは1ドル/122.95円。

5月9日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.7円の値下がり、軽油も同1.6円の値下がり、灯油は17円の値下がり(18%ベース)であった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は171.1円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は34.7円。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/1 ~ 5/7	3,185 ▼ -11	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	82.8 ▼ -0.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/7	10,124 ▲ 391	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/9	106.73 ▲ 6.34	▲ 40.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/9	103.09 ▼ -2.08	▲ 38.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	108.37 ▲ 4.59	▲ 42.06
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	83,811 ▲ 5,037	▲ 38,111
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	122.95 ▼ -2.26	▼ -13.38
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/9	131.78 ▼ -0.68	▼ -22.01

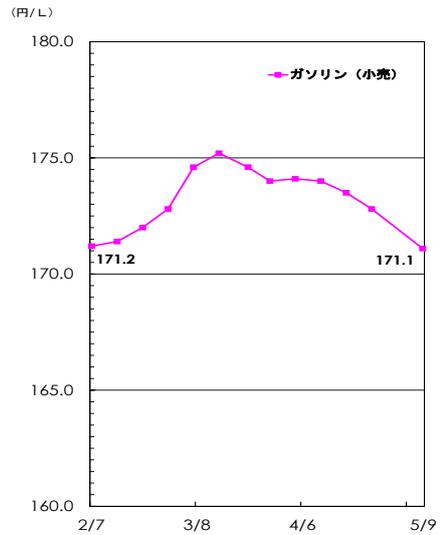
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/1 ~ 5/7	837 ▼ -2	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	819 ▲ 41	▲ -	
	輸出	"	43 ▲ 4	▲ -	
	在庫	5/7	1,676 ▼ -25	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/26 ~ 5/9	75.9 ▼ -2.1	▲ 15.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/26 ~ 5/9	72.7 ▼ -5.7	▲ 14.3
		(TOCOM/中部)	5/9	75.6 ▼ -0.2	▲ 15.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/9	171.1 ▼ -1.7	▲ 20.5	

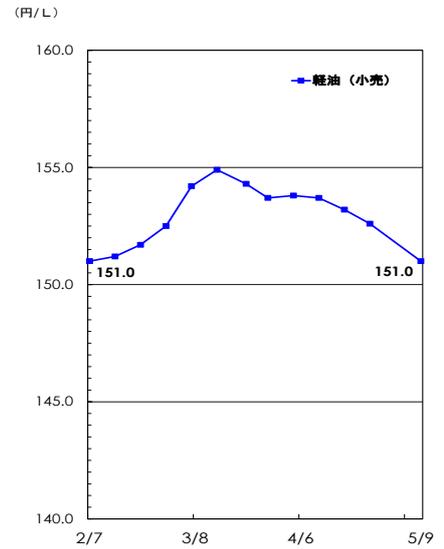
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

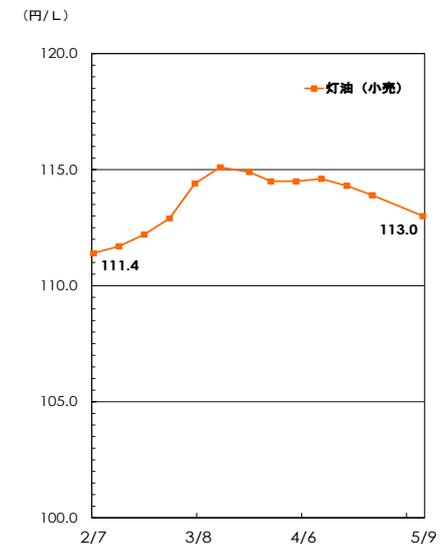
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/1 ~ 5/7	697 ▲ 19	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	317 ▼ -245	▼ -	
	輸出	"	117 ▲ 19	▲ -	
	在庫	5/7	1,486 ▲ 263	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/26 ~ 5/9	76.4 ▼ -1.5	▲ 14.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/26 ~ 5/9	90.3 ▼ -0.2	▲ 26.9
		(TOCOM/中部)	5/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/9	151.0 ▼ -1.6	▲ 20.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/1 ~ 5/7	173 ▼ -10	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	68 ▼ -50	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	5/7	1,289 ▲ 104	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/26 ~ 5/9	76.0 ▼ -1.8	▲ 14.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/26 ~ 5/9	76.5 ▲ 0.2	▲ 18.5
		(TOCOM/中部)	5/9	76.0 ▼ -1.3	▲ 15.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/9	113.0 ▼ -0.9	▲ 21.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月11日のNYMEX先物原油は、ウクライナが、ロシアの侵攻以来、初めて、同国経由のロシア産天然ガスのパイプラインの主要中継点を停止、石油需給への波及懸念から、3営業日ぶりに、大幅反発した。また、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の先週末(5月6日)時点の米国石油在庫週報で、原油在庫が前週比850万バレル増と市場予想(50万バレル減)に反する積み増しだったが、石油製品在庫もガソリン360万バレル減・中間留分90万バレル減と取り崩しとなり、またまちの結果だったことから、相場に影響はなかった。6月限の終値は前日比5.95ドル高の105.71ドル、7月限は5.58ドル高の104.03ドルだった。

EIAによると、5月9日時点のガソリンの小売価格は、前週比14.6セント値上がりの1ガロン4.328ドル(150.5円/ℓ)、ディーゼルは同11.4セント値上がりの5.623ドル(195.5円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは4週連続の値上がりとなった。

ベーカーヒューズ社4月29日発表の米国内稼働石油掘削装置は前週比3基増の552基。また、5月6日の同発表は、前週比5基増の557基と7週連続増加。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年5月1日～5月7日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して3.9万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は318.5万klと、前週に比べ1.1万kl減少。前年に対しては68.6万klの増加。トッパー稼働率は82.8%と前週に対して0.2ポイントの減少、前年に対しては17.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.3%減、ジェット/52.2%増、灯油/5.6%減、軽油/2.8%増、A重油/24.3%減、C重油/9.8%増。今週のC重油の輸入は3.4万kl(前週比3.4万kl増)。軽油の輸出は11.7万kl(前週比1.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリンが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は81.9万kl(対前週5.3%増)と2週連続で増加した。ジェット7.2万kl(対前週40.7%増)、灯油6.8万kl(対前週42.2%減)、軽油31.7万kl(対

前週43.6%減)、A重油8.0万kl(対前週44.4%減)、C重油13.2万kl(対前週40.5%減)。

(単位:千kl)

	今週 (5/1 ~ 5/7)	前週 (4/24 ~ 4/30)	前週比	
ガソリン	819	778	▲ 41	(5%)
ジェット燃料	72	51	▲ 21	(41%)
灯油	68	118	▼ -50	(-42%)
軽油	317	562	▼ -245	(-44%)
A重油	80	144	▼ -64	(-44%)
C重油	132	222	▼ -90	(-41%)
合計	1,488	1,875	▼ -387	(-21%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月7日時点の在庫は、ガソリン、ジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは167.6万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては23.9万kl少ない。

灯油は128.9万kl、前週差10.4万kl増。前年に対しては20.3万kl少ない。

軽油は148.6万kl、前週差26.3万kl増。前年に対しては40.9万kl少ない。

A重油は75.1万kl、前週差5.1万kl増。前年に対しては3.1万kl少ない。

C重油は173.8万kl、前週差12.4万kl増。前年に対しては26.3万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (5/7)	前週 (4/30)	前週比	
ガソリン	1,676	1,701	▼ -25	(-1%)
ジェット燃料	821	832	▼ -11	(-1%)
灯油	1,289	1,185	▲ 104	(9%)
軽油	1,486	1,223	▲ 263	(22%)
A重油	751	700	▲ 51	(7%)
C重油	1,738	1,614	▲ 124	(8%)
合計	7,761	7,255	▲ 506	(7.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月3日～9日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の原油コストは、2.5円値上がりしたものと見られる。

げとなった模様。

上記コストアップに先週の補助金額31.8円を加えたコスト上昇額34.3円に、補助金34.7円が支給されることから、次週(5/12～5/18)の元売会社の実質的な卸価格は0.4円の値下

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

4月26日～5月9日の製品スポット市況は、4月19日～25日平均と比べ、海上・ガソリン、先物・灯油、海上・軽油の値上がりを除いて、他の取引・油種で値下がりした。

直近週(4/26～5/9)の陸上スポット価格平均値は、前週(4/19～4/25)比で、ガソリンは2.1円の値下がり、灯油は1.8円の値下がり、軽油は1.5円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(4/26～5/9)に、前週(4/19～4/25)比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は2.0円の値下がり、軽油は0.7円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは5.7円の値下がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.2円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (4/26～5/9)	前週 (4/19～4/25)	前週比
	レギュラー	75.9	78.0
灯油	76.0	77.8	▼ -1.8
軽油	76.4	77.9	▼ -1.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (4/26～5/9)	前週 (4/19～4/25)	前週比
	レギュラー	72.7	78.4
灯油	76.5	76.3	▲ 0.2
軽油	90.3	90.5	▼ -0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/26～5/9実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.1	▼ -5.7	▼ -3.9
灯油	▼ -1.8	▲ 0.2	▼ -0.8
軽油	▼ -1.5	▼ -0.2	▼ -0.8
A重油	▼ -2.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.7円安の171.1円、軽油も同1.6円安の151.0円、灯油は18%ベースで同17円安の2,034円(1%ベースでは同0.9円安の113.0円)。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりだった。

次回調査時(5/16)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが見込まれる。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは1県、横ばいは2県、値下がり44都道府県だった。全国最安値は宮城県165.1円、その次は愛知県165.2円であった。他方、最高値は長崎県の181.5円だった。最も値上がりしたのは大分県(前週比0.1円高)で、横ばいは沖縄県と高知県の2県、最も値下がりしたのは愛知県(同3.6円安)だった。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/9)	前週 (4/25)	前週比	直近高値
レギュラー	171.1	172.8	▼ -1.7	08/8/4 185.1
灯油	113.0	113.9	▼ -0.9	08/8/11 132.1
軽油	151.0	152.6	▼ -1.6	08/8/4 167.4

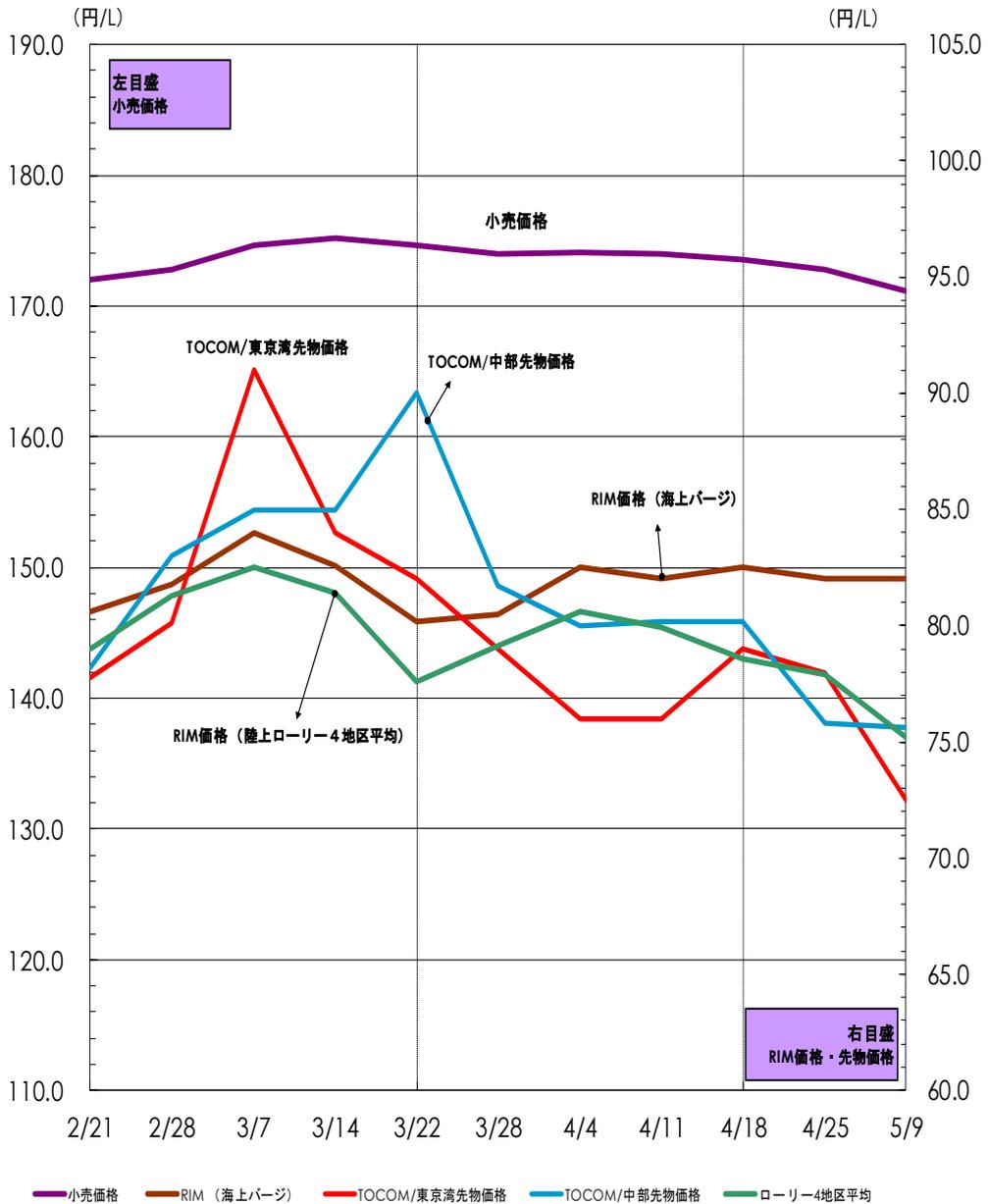
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/2/21 ~ 2022/5/9)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2022第7号)の公表は、5/20(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。